

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200350		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松天竜 (1ユニット)		
所在地	静岡県浜松市天竜区山東4360-1		
自己評価作成日	令和4年6月2日	評価結果市町村受理日	令和4年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhfw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kanistue&JiyosyoCd=2297200350-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナにて、ホーム内のみの生活と制限され、いかにホーム内で、安全に楽しく生活するかを重点におき、感染防止に力を入れてきました。おかげで、一人の感染者も出さず、現在に至っています。外出できない中で、ホーム内での歌や体操の時間を設けたり、散歩などの支援に力を入れています。またBPSDの対応では、ご入居されたばかりの方の不安なお気持ちに寄り添い、「ダメ」と言わない介護を実践しています。自立支援のため、草取りがお好きな方に、草取りをお願いしたり、モップ拭きのおそうじのお手伝いをさせていただいたり、しています。共用型デイサービスのご利用者も入る日があるため、フロアは賑やかな日もあれば、静かな日もあ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天竜区の玄関口にあたる地域に事業所はあります。お茶やシイタケ、自然薯など天竜には山の幸が豊富ですが今年も鹿島の花火大会は休止で、山間地域にあってもコロナ過の影響は街中と同じようにあり、「小さくとも楽しみをもってもらいたい」として、スイーツバイキングや居酒屋風イベントを職員が企画しており、8月に予定している夏まつりは水風船を釣る遊びや射幸心をくすぐるゲームを今から準備しています。一時は陽性者も出て、出勤可能な職員が極端に減り難儀が続いたものの、全国に280余のグループホームがある大企業のスケールメリットとして周辺の同法人の事業所からも応援を得ることができ、災難を乗り越えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時にみんなで唱和しながら、朝礼や月に1度の会議の中で、説明し、確認をしています。	法人主導で掲示やBOOK(解説書のようなもの)など職員の浸透を進めるツールが豊富にあり、定着が図られています。また、声かけが上手だった職員不在で管理者も現場に入っており、更に職員を鼓舞しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域から回覧板が回ってきて、地域の案内など頂けています。ほとんどが中止の中で、地域の方から、「またお祭りなど一緒に楽しみたい。愛の家さんに、1年に1度お祭り時によるだけだが、子供たちも楽しみにしている」などお声を頂いています。	毎年自治会長が替わるので、OBとともに応援者が増えています。積極的にはできませんが、散歩など自然な形で出会えたときは話も弾み、コロナ過明けが楽しみになります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、地域へのご案内に「いきいき」「にっこり」など発行して発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いたご意見など、社内ですぐに話し合い改善できることは、とりいれたいしています。	コロナ過のため書面開催となっておりますが、運営推進会議は2ヶ月毎欠かさず実施しています。ヒヤリハットなど克明に記載した議事録は、市役所以外のメンバーには直接渡しています。	ウイズコロナで地域とも関わりを進めることができるよう、まずは運営推進会議の参加を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者から、コロナ禍にお電話いただき、愛の家の運営推進会議に是非参加したい。他の見本になるような会議で、毎回来るのが楽しみとおほめのことをいただけたり、疑問などは担当者にご相談させてもらっています。	不明点等は電話でも丁寧に教えてもらえ、助けられています。一方管理者は市役所の依頼で、新入職員に向けた認知症への理解を進める講座(認知症サポーターキャラバン)を担当、事業所も協力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の委員会を3か月に1回行い、また、普段のユニット会議内で常に検証しています。	3ヶ月毎に不適切ケアチェックシートで振り返りをおこない、身体拘束廃止委員会で具体的な改善協議につなげています。もともと拘束や虐待とは無縁なものの、話し合う機会があることで職員の意識継続に実っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社からの研修案内や、社内研修会や、朝礼時に何が虐待に当たるか、具体的な対応方法など伝え、虐待の防止に動めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社からの研修を社内研修会として行いながら、説明を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时より、契約に至るまでの流れや、契約時の疑問など書面にて説明し、ご理解を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、その他、スマホのラインなどを通じてお聴きしたり、直接お電話にてお聴きしています。	家族アンケートは7割強で回収率が高く、「キセキレイ(事業所通信)」とともに、「認知症の高齢者の特性をしっかりとらえ、本人の生活の幅を拡げようという支援方針がしっかりとある」と介護への信頼も上々です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や、全体会議だけでなく、色々な場面で職員に声をかけ、意見や、考えていることを聴いたりしています。それらをまとめてより具体的な方向で実践できるよう支援しています。	家族アンケートでは評判の高さがある反面、職員の力量の差についての課題などにはエールが送られています。家族が気づくだけあって、経験値の差が意見の相違を生むこともあり、管理者が調整しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社のキャリアパスなどを説明したりその充実を受けて、職員の面談機会を持ったり、帰る時に声掛けし、アドバイスしたりしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員と一緒にフロアで勤め、OJTをさりげなく行ったり、成功例をほめたり、以外にも労いのことばをかけるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナのためなかなか外部とのやり取りができなかったが、常にその門を閉ざすことがないよう、努力中である。他のサービス事業者と勉強会を企画している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時は、ご本人に対面してお話しを聴くとともに、ご家族にご様子などお聴きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談頂いた段階から、ご利用者や、ご家族の状態把握に努め、ご利用者や、ご家族に寄り添い、不安やの払拭に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談頂いた時点で、問題把握に努め、必要な支援について適切なサービスをご利用できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、寄り添う介護、待つ介護を実践し、ご利用者に常に寄り添っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スマホのラインなどを利用し、常にご利用者のご様子をお知らせしたり、ご面会時は、ゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時や、ご入居後もご本人のことばに耳を傾け、ご希望あるときは、ご家族に了解を得たうえで、お連れしている。	面会ができない補填としてラインを導入しており、していない家族には、SNSで伝えています。緊急時や、大切なことは電話、急ぎでない相談事はラインやSNSと使い分けて、家族と本人の橋渡しに努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者のお一人お一人の状態把握に努め、できること、苦手なことを把握し、無理強いないよう注意しながら、孤立しないよう配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GH退去後も年賀状のやり取りや、近況をおしらせくださるなどのやり取りがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人と話、思いをくみ取る努力をしている。	センター方式「私ができること・私ができないことシート」を活用することで利用者へのアプローチを検討したり、また聞き取ったことや確認できたことはフロアノートに記録を残しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族などにお聞きしながら、状態把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が色々準備し、ご本人の様子を見ながら、現状把握に努め情報の共有に勤めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや、日々の朝礼や夕礼等で、状態把握に努め、介護計画に活かしている。	利用者一人ひとりに向けたカンファレンスの他にも朝夕の申し送りや、ユニット会議で情報共有の機会を増やしています。更新時には家族にも介護計画書への意見を仰ぎ、「チームでつくる」につなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各種記録を通して、情報共有して対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々なケースに応じることができるよう常にOJTなど行いながら、よりよいケアを模索し、挑戦している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのつながりを大切にして、地域の情報収集に努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医が月2回ホーム内に往診に来てくれている。	訪問診療医を協力医としています。月2回の診療は医師にあわせて火曜日の午後とし、看護師と調剤薬局の薬剤師も帯同のうえ、万全の体制で臨んでもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との情報共有に努め、ご利用者の健康のため、努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、ご家族の思いに寄り添いながら、文寺等に積極的に参加し、病院との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の求めに応じて、看取りについてご説明させていただき、適切な時期に適切にご提案をさせていただいている。	職員は看取りを嫌がったり、不安に思う人はなく、敬虔な気持ちで看取りに取り組んでいます。今3月には、末期癌の状態なものの、週1日勤務の看護師もおり、無事お見送りが叶っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応など、朝礼などで、例を上げながら、説明したり、研修会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法令に基づき避難訓練を行っている。	年間計画に位置づけ、計画的に年2回の法定訓練をおこなっています。備蓄は整っており、また地域との関係も良好に築いていますが、自治会長が年度で交替していることから強固には至らず、有事のときの連携はやや課題が残ります。	法定2回に加え、台風を含む風水害について一度机上訓練(話し合いのシミュレーション)を実施することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼や、全体会議などで、人権啓発の話をしたり不適切なケアチェックシートなどを用いて、対応について話会う場を設けている。	接遇関連の勉強会は年2回おこない、不適切ケアチェックは年4回実施のうえ、最近では人権啓発に向けた話し合いの場もあり、職員からの真摯な意見も挙がっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のご希望についてお話を聴き、その実現に向けて考え対応する努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のご利用者に合った時間について考え、配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族からのご相談を受けたり、ご協力いただきながら、季節や、好みの服装などができるよう努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや、食器洗い、食器拭きなどお願いし、一緒にやることのできるよう支援している。	本社からカット野菜が届くシステムに変更していますが、天竜の山の幸をプラスαして、タラの芽の天ぷらなども提供しており、利用者は1ヶ月に1回ほど食卓にのぼるお刺身を心待ちにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人、一人の体重や、BMIから、適切な量を出し、対応している。水分補給などもご本人の好みにあったものを低級しながら、不足が内容提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食後は必ず、口腔ケアをするよう声掛けし義歯を預かって管理したり、ご本人の状態に応じて適切に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表や、その方の状態により、夜間のみパットを付けるなどその方その方に合った適切な対応をしている。	平均介護度は2Fが2.6、1Fが2.9で、やや重くなっていますが、100歳を迎えた利用者もいて、総じて壮健です。「なるべくトイレで」を貫き、安易にベッド交換としないケアをおこなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖や、ヨーグルト、食物繊維を足して、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いせず、午前や、午後と入れ替えたり、必要時は、夜間も一部対応している。	共用型デイサービスを利用のうえ、事業所に通ってくる人が4名いることから湯はほぼ毎日はっていて、法定の週2回より増やしており、時間帯も本人の希望に沿っています。湯船では歌をうたう人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるような環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報ファイルを作り、多重に確認する仕組みを作り、徹底して間違いをなくしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者ができる力を信じ、できるように工夫をし、生き活きた生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩二時間を設けたり、ご本人のご希望により出かけることができるよう支援している。	遠出は僅かになっていますが散歩は十分支援しています。また家族が連れ出してくれる人もいます。面会ができにくい状況からLINEがつながっている家族も少なくなく、「〇〇に着きました」「今からもどります」といった連絡が随時入り安心です。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のご希望に沿い、ご家族と話し合いながら、ご本人の満足できるよう努力している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて電話でのやり取りや、活動の中で、ご家族にお手紙をお出しするなど対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁面飾りなど一緒に制作していただき、見当識などに働きかけるよう努力しながら、居心地よい空間となるよう努力している。	手指消毒と除菌清掃を徹底させ、衛生的な環境を配備するとともに、1Fはカエル、2Fは花火や向日葵といった壁画を利用者と製作して、季節を感じるようにもしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者が思い思いの場でゆっくりくつろいでいただけるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族にご説明させていただきながら使い慣れた物や、ご本人の好みのものをお持ち込みいただけるよう一緒に工夫している。	ベッドの横にソファを置いたり、また起床したらベッドに取り付けたアームバーを掴んで、次は…と、居室から出るまでに頼りとなるものがあるよう動線を検討したケースもあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人個人の安全な暮らしについてアセスメントし、福祉用具の選定や、環境など見直し、家具の位置なども変更しながら、安全に、自立した生活を送ることができるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200350		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松天竜 (2ユニット)		
所在地	静岡県浜松市天竜区山東4360-1		
自己評価作成日	令和4年6月2日	評価結果市町村受理日	令和4年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhiv.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kanistue&JiyosyoCd=2297200350-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナにて、ホーム内のみの生活と制限され、いかにホーム内で、安全に楽しく生活するかを重点におき、感染防止に力を入れてきました。おかげで、一人の感染者も出さず、現在に至っています。外出できない中で、ホーム内での歌や体操の時間を設けたり、散歩などの支援に力を入れています。またBPSDの対応では、ご入居されたばかりの方の不安なお気持ちに寄り添い、「ダメ」と言わない介護を実践しています。自立支援のため、草取りがお好きな方に、草取りをお願いしたり、モップ拭きのおそうじのお手伝いをさせていただいたり、しています。共用型デイサービスのご利用者も入る日があるため、フロアは賑やかな日もあれば、静かな日もあ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天竜区の玄関口にあたる地域に事業所はあります。お茶やシイタケ、自然薯など天竜には山の幸が豊富ですが今年も鹿島の花火大会は休止で、山間地域にあってもコロナ過の影響は街中と同じようにあり、「小さくとも楽しみをもってもらいたい」として、スイーツバイキングや居酒屋風イベントを職員が企画しており、8月に予定している夏まつりは水風船を釣る遊びや射幸心をくすぐるゲームを今から準備しています。一時は陽性者も出て、出勤可能な職員が極端に減り難儀が続いたものの、全国に280余のグループホームがある大企業のスケールメリットとして周辺の同法人の事業所からも応援を得ることができ、災難を乗り越えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時にみんなで唱和しながら、朝礼や月に1度の会議の中で、説明し、確認をしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域から回覧板が回ってきて、地域の案内など頂けています。ほとんどが中止の中で、地域の方から、「またお祭りなど一緒に楽しみたい。愛の家さんに、1年に1度お祭り時によるだけだが、子供たちも楽しみにしている」などお声を頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、地域へのご案内に「いきいき」「にっこり」など発行して発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いたご意見など、社内ですぐに話し合い改善できることは、とりいれたいと思っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者から、コロナ禍にお電話いただき、愛の家の運営推進会議に是非参加したい。他の見本になるような会議で、毎回来るのが楽しみとおほめのことをいただいたり、疑問などは担当者にご相談させてもらっています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の委員会を3か月に1回行い、また、普段のユニット会議内で常に検証しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社からの研修案内や、社内研修会や、朝礼時に何が虐待に当たるか、具体的な対応方法など伝え、虐待の防止に動めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社からの研修を社内研修会として行いながら、説明を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時より、契約に至るまでの流れや、契約時の疑問など書面にて説明し、ご理解を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、その他、スマホのラインなどを通じてお聴きしたり、直接お電話にてお聴きしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や、全体会議だけでなく、色々な場面で職員に声をかけ、意見や、考えていることを聴いたりしています。それらをまとめてより具体的な方向で実践できるよう支援しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社のキャリアパスなどを説明したりその充実を受けて、職員の面談機会を持ったり、帰る時に声掛けし、アドバイスしたりしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員と一緒にフロアで勤め、OJTをさりげなく行ったり、成功例をほめたり、以外にも労いのことばをかけるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナのためなかなか外部とのやり取りができなかったが、常にその門を閉ざすことがないよう、努力中である。他のサービス事業者と勉強会を企画している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時は、ご本人に対面してお話を聴くとともに、ご家族にご様子などお聴きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談頂いた段階から、ご利用者や、ご家族の状態把握に努め、ご利用者や、ご家族に寄り添い、不安やの払拭に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談頂いた時点で、問題把握に努め、必要な支援について適切なサービスをご利用できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、寄り添う介護、待つ介護を実践し、ご利用者に常に寄り添っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スマホのラインなどを利用し、常にご利用者のご様子をお知らせしたり、ご面会時は、ゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時や、ご入居後もご本人のことばに耳を傾け、ご希望あるときは、ご家族に了解を得たうえで、お連れしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者のお一人お一人の状態把握に努め、できること、苦手なことを把握し、無理強いないよう注意しながら、孤立しないよう配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GH退去後も年賀状のやり取りや、近況をおしらせくださるなどのやり取りがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人と話、思いをくみ取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族などにお聞きしながら、状態把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が色々準備し、ご本人の様子を見ながら、現状把握に努め情報の共有に勤めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや、日々の朝礼や夕礼等で、状態把握に努め、介護計画に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各種記録を通して、情報共有して対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々なケースに応じることができるよう常にOJTなど行いながら、よりよいケアを模索し、挑戦している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのつながりを大切にして、地域の情報収集に努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医が月2回ホーム内に往診に来てくれている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との情報共有に努め、ご利用者の健康のため、努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、ご家族の思いに寄り添いながら、文書等に積極的に参加し、病院との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の求めに応じて、看取りについてご説明させていただき、適切な時期に適切なご提案をさせていただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応など、朝礼などで、例を上げながら、説明したり、研修会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法令に基づき避難訓練を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼や、全体会議などで、人権啓発の話をしたり不適切なケアチェックシートなどを用いて、対応について話会う場を設けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のご希望についてお話を聴き、その実現に向けて考え対応する努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のご利用者に合った時間について考え、配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族からのご相談を受けたり、ご協力いただきながら、季節や、好みの服装などができるよう努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや、食器洗い、食器拭きなどお願いし、一緒にやることができるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人、一人の体重や、BMIから、適切な量を出し、対応している。水分補給などもご本人の好みにあったものを低級しながら、不足が内容提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食後は必ず、口腔ケアをするよう声掛けし義歯を預かって管理したり、ご本人の状態に応じて適切に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表や、その方の状態により、夜間のみパットを付けるなどその方その方に合った適切な対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖や、ヨーグルト、食物繊維を足して、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いせず、午前や、午後と入れ替えたり、必要時は、夜間も一部対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるような環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報ファイルを作り、多重に確認する仕組みを作り、徹底して間違いを亡くしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者ができる力を信じ、できるように工夫をし、生き活きた生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩二時間を設けたり、ご本人のご希望により出かけることができるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のご希望に沿い、ご家族と話し合いながら、ご本人の満足できるよう努力している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて電話でのやり取りや、活動の中で、ご家族にお手紙をお出しするなど対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁面飾りなど一緒に制作していただき、見当識などに働きかけるよう努力しながら、居心地よい空間となるよう努力している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者が思い思いの場でゆっくりくつろいでいただけるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族にご説明させていただきながら使い慣れた物や、ご本人の好みのもをお持ち込みいただけるよう一緒に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人個人の安全な暮らしについてアセスメントし、福祉用具の選定や、環境など見直し、家具の位置なども変更しながら、安全に、自立した生活を送ることができるよう支援している。		